

使用上の注意改訂のお知らせ

スルホニルウレア系経口血糖降下剤
 日本薬局方 グリメピリド錠
グリメピリド錠 0.5mg 「日医工」
グリメピリド錠 1mg 「日医工」
グリメピリド錠 3mg 「日医工」

スルホニルウレア系経口血糖降下剤
グリメピリド OD 錠 0.5mg 「日医工」
グリメピリド OD 錠 1mg 「日医工」
グリメピリド OD 錠 3mg 「日医工」
 グリメピリド口腔内崩壊錠

製造販売元 日 医 工 株 式 会 社
 富山市総曲輪 1 丁目 6 番 21

この度、上記製品につきまして「使用上の注意」の一部を改訂（下線部分）いたしましたので、お知らせ申し上げます。

なお、改訂添付文書を封入した製品がお手元に届くまでには若干の日数が必要ですので、今後のご使用に際しましては下記内容をご高覧くださいますようお願い申し上げます。

<グリメピリド錠 0.5mg/1mg/3mg 「日医工」改訂内容> (_____ : 自主改訂, _____ : 削除)

改 訂 後	現 行																								
<p>3. 相互作用 本剤は、主に肝代謝酵素 CYP2C9 により代謝される。 併用注意（併用に注意すること） (1) 血糖降下作用を増強する薬剤 1) 臨床症状 (現行どおり) 2) 措置方法 (現行どおり) 3) 薬剤名等：作用機序</p> <table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <thead> <tr> <th style="width: 50%; text-align: center;">薬剤名等</th> <th style="width: 50%; text-align: center;">作用機序</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td colspan="2" style="text-align: center;">(現行どおり)</td> </tr> <tr> <td>プロピオン酸系消炎剤 ナプロキセン, ロキソプロフェンナト リウム水和物等</td> <td rowspan="3">血中蛋白との結合抑制 [これらの消炎剤は蛋白結合率が高いので、血中に本剤の遊離型が増加して血糖降下作用が増強するおそれがある。]</td> </tr> <tr> <td>アリアル酢酸系消炎剤 アンフェナクナトリウム水和物, ナブメトン等</td> </tr> <tr> <td>オキシカム系消炎剤 <u>ロルノキシカム</u>等</td> </tr> <tr> <td colspan="2" style="text-align: center;">(現行どおり)</td> </tr> </tbody> </table>	薬剤名等	作用機序	(現行どおり)		プロピオン酸系消炎剤 ナプロキセン, ロキソプロフェンナト リウム水和物等	血中蛋白との結合抑制 [これらの消炎剤は蛋白結合率が高いので、血中に本剤の遊離型が増加して血糖降下作用が増強するおそれがある。]	アリアル酢酸系消炎剤 アンフェナクナトリウム水和物, ナブメトン等	オキシカム系消炎剤 <u>ロルノキシカム</u> 等	(現行どおり)		<p>3. 相互作用 本剤は、主に肝代謝酵素 CYP2C9 により代謝される。 併用注意（併用に注意すること） (1) 血糖降下作用を増強する薬剤 1) 臨床症状 (略) 2) 措置方法 (略) 3) 薬剤名等：作用機序</p> <table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <thead> <tr> <th style="width: 50%; text-align: center;">薬剤名等</th> <th style="width: 50%; text-align: center;">作用機序</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td colspan="2" style="text-align: center;">(略)</td> </tr> <tr> <td><u>ピラゾロン系消炎剤</u> <u>ケトフェニルブタゾン</u></td> <td><u>血中蛋白との結合抑制, 腎排泄抑制, 肝代謝抑制</u></td> </tr> <tr> <td colspan="2" style="text-align: center;">(略)</td> </tr> <tr> <td>プロピオン酸系消炎剤 ナプロキセン, ロキソプロフェンナト リウム水和物等</td> <td rowspan="3">血中蛋白との結合抑制 [これらの消炎剤は蛋白結合率が高いので、血中に本剤の遊離型が増加して血糖降下作用が増強するおそれがある。]</td> </tr> <tr> <td>アリアル酢酸系消炎剤 アンフェナクナトリウム水和物, ナブメトン等</td> </tr> <tr> <td>オキシカム系消炎剤 <u>テノキシカム</u></td> </tr> <tr> <td colspan="2" style="text-align: center;">(略)</td> </tr> </tbody> </table>	薬剤名等	作用機序	(略)		<u>ピラゾロン系消炎剤</u> <u>ケトフェニルブタゾン</u>	<u>血中蛋白との結合抑制, 腎排泄抑制, 肝代謝抑制</u>	(略)		プロピオン酸系消炎剤 ナプロキセン, ロキソプロフェンナト リウム水和物等	血中蛋白との結合抑制 [これらの消炎剤は蛋白結合率が高いので、血中に本剤の遊離型が増加して血糖降下作用が増強するおそれがある。]	アリアル酢酸系消炎剤 アンフェナクナトリウム水和物, ナブメトン等	オキシカム系消炎剤 <u>テノキシカム</u>	(略)	
薬剤名等	作用機序																								
(現行どおり)																									
プロピオン酸系消炎剤 ナプロキセン, ロキソプロフェンナト リウム水和物等	血中蛋白との結合抑制 [これらの消炎剤は蛋白結合率が高いので、血中に本剤の遊離型が増加して血糖降下作用が増強するおそれがある。]																								
アリアル酢酸系消炎剤 アンフェナクナトリウム水和物, ナブメトン等																									
オキシカム系消炎剤 <u>ロルノキシカム</u> 等																									
(現行どおり)																									
薬剤名等	作用機序																								
(略)																									
<u>ピラゾロン系消炎剤</u> <u>ケトフェニルブタゾン</u>	<u>血中蛋白との結合抑制, 腎排泄抑制, 肝代謝抑制</u>																								
(略)																									
プロピオン酸系消炎剤 ナプロキセン, ロキソプロフェンナト リウム水和物等	血中蛋白との結合抑制 [これらの消炎剤は蛋白結合率が高いので、血中に本剤の遊離型が増加して血糖降下作用が増強するおそれがある。]																								
アリアル酢酸系消炎剤 アンフェナクナトリウム水和物, ナブメトン等																									
オキシカム系消炎剤 <u>テノキシカム</u>																									
(略)																									

<グリメピリド OD 錠 0.5mg/1mg/3mg 「日医工」改訂内容> (_____ : 自主改訂, _____ : 削除)

改訂後		現行																									
3. 相互作用 本剤は、主に肝代謝酵素 CYP2C9 により代謝される。 併用注意（併用に注意すること） (1) 血糖降下作用を増強する薬剤 1) 臨床症状 (現行どおり) 2) 措置方法 (現行どおり) 3) 薬剤名等：作用機序		3. 相互作用 本剤は、主に肝代謝酵素 CYP2C9 により代謝される。 併用注意（併用に注意すること） (1) 血糖降下作用を増強する薬剤 1) 臨床症状 (略) 2) 措置方法 (略) 3) 薬剤名等：作用機序																									
<table border="1"> <thead> <tr> <th>薬剤名等</th> <th>作用機序</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td colspan="2" style="text-align: center;">(現行どおり)</td> </tr> <tr> <td>プロピオン酸系消炎剤 ナプロキセン, ロキソプロフェンナト リウム水和物等</td> <td rowspan="3">血中蛋白との結合抑制 [こ れらの消炎剤は蛋白結合 率が高いので、血中にグリ メピリドの遊離型が増加 して血糖降下作用が増強 するおそれがある。]</td> </tr> <tr> <td>アリアル酢酸系消炎剤 アンフェナクナトリウ ム水和物, ナブメトン等</td> </tr> <tr> <td>オキシカム系消炎剤 <u>ロルノキシカム</u>等</td> </tr> <tr> <td colspan="2" style="text-align: center;">(現行どおり)</td> </tr> </tbody> </table>		薬剤名等	作用機序	(現行どおり)		プロピオン酸系消炎剤 ナプロキセン, ロキソプロフェンナト リウム水和物等	血中蛋白との結合抑制 [こ れらの消炎剤は蛋白結合 率が高いので、血中にグリ メピリドの遊離型が増加 して血糖降下作用が増強 するおそれがある。]	アリアル酢酸系消炎剤 アンフェナクナトリウ ム水和物, ナブメトン等	オキシカム系消炎剤 <u>ロルノキシカム</u> 等	(現行どおり)		<table border="1"> <thead> <tr> <th>薬剤名等</th> <th>作用機序</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td colspan="2" style="text-align: center;">(略)</td> </tr> <tr> <td><u>ピラゾロン系消炎剤</u> <u>ケトフェニルブタゾン</u></td> <td rowspan="3">血中蛋白との結合抑制, 腎 排泄抑制, 肝代謝抑制</td> </tr> <tr> <td colspan="2" style="text-align: center;">(略)</td> </tr> <tr> <td>プロピオン酸系消炎剤 ナプロキセン, ロキソプロフェンナト リウム水和物等</td> </tr> <tr> <td>アリアル酢酸系消炎剤 アンフェナクナトリウ ム水和物, ナブメトン等</td> <td rowspan="2">血中蛋白との結合抑制 [こ れらの消炎剤は蛋白結合 率が高いので、血中にグリ メピリドの遊離型が増加 して血糖降下作用が増強 するおそれがある。]</td> </tr> <tr> <td>オキシカム系消炎剤 <u>テノキシカム</u></td> </tr> <tr> <td colspan="2" style="text-align: center;">(略)</td> </tr> </tbody> </table>		薬剤名等	作用機序	(略)		<u>ピラゾロン系消炎剤</u> <u>ケトフェニルブタゾン</u>	血中蛋白との結合抑制, 腎 排泄抑制, 肝代謝抑制	(略)		プロピオン酸系消炎剤 ナプロキセン, ロキソプロフェンナト リウム水和物等	アリアル酢酸系消炎剤 アンフェナクナトリウ ム水和物, ナブメトン等	血中蛋白との結合抑制 [こ れらの消炎剤は蛋白結合 率が高いので、血中にグリ メピリドの遊離型が増加 して血糖降下作用が増強 するおそれがある。]	オキシカム系消炎剤 <u>テノキシカム</u>	(略)	
薬剤名等	作用機序																										
(現行どおり)																											
プロピオン酸系消炎剤 ナプロキセン, ロキソプロフェンナト リウム水和物等	血中蛋白との結合抑制 [こ れらの消炎剤は蛋白結合 率が高いので、血中にグリ メピリドの遊離型が増加 して血糖降下作用が増強 するおそれがある。]																										
アリアル酢酸系消炎剤 アンフェナクナトリウ ム水和物, ナブメトン等																											
オキシカム系消炎剤 <u>ロルノキシカム</u> 等																											
(現行どおり)																											
薬剤名等	作用機序																										
(略)																											
<u>ピラゾロン系消炎剤</u> <u>ケトフェニルブタゾン</u>	血中蛋白との結合抑制, 腎 排泄抑制, 肝代謝抑制																										
(略)																											
プロピオン酸系消炎剤 ナプロキセン, ロキソプロフェンナト リウム水和物等																											
アリアル酢酸系消炎剤 アンフェナクナトリウ ム水和物, ナブメトン等	血中蛋白との結合抑制 [こ れらの消炎剤は蛋白結合 率が高いので、血中にグリ メピリドの遊離型が増加 して血糖降下作用が増強 するおそれがある。]																										
オキシカム系消炎剤 <u>テノキシカム</u>																											
(略)																											

* 改訂内容につきましては DSU No.257 に掲載の予定です。

<改訂理由>

- ・「相互作用」「併用注意」の項に記載しておりましたケトフェニルブタゾン、テノキシカムは既に国内で販売中止していることから記載整備いたしました。

なお、改訂後の添付文書は日医工株式会社ホームページ

http://www.nichiiko.co.jp/medicine/medicine_m_seihin.html

及び医薬品医療機器情報提供ホームページ <http://www.pmda.go.jp/> に掲載いたします。